

(別紙様式2)

普及指導員調査研究報告書

課題名：化学農薬の使用量低減に向けた取組の推進

所属名：農林総合技術センター 企画戦略部 技術革新普及グループ

担当者氏名：中川 浩二・金治 直子

＜活動事例の要旨＞

施設園芸における化学農薬の使用量低減と省力的な防除技術確立のためイチゴのアザミウマ類を対象に生物農薬であるククメリスEX（ククメリスカブリダニ）による実証・普及活動の支援を行った。

1 普及活動の課題・目標

食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立を実現することを目的とした「みどりの食料システム戦略」では、2050年目標として化学農薬使用量50%低減（リスク換算）が挙げられている。一方で、地球温暖化にともない病虫害が増加傾向にある中、化学農薬による防除が中心のため、薬剤抵抗性を獲得した病虫害が発生する事態も生じている。このため、環境負荷軽減を軽減する技術の普及が課題となっている。

この度は、イチゴのハウス栽培においてククメリスEX（ククメリスカブリダニ）を使用しアザミウマ類の発生を抑制することで、化学農薬散布回数の軽減と併せた省力的な防除技術を確認する。

併せて、従来から実施している病虫害・生育障害診断により、的確な防除指導を実施し、化学農薬の使用量を低減した栽培を実現していく。

2 普及活動の内容

（1）天敵農薬の使用による化学農薬の使用量低減及び省力的な防除技術の効果確認

長門農林水産事務所管内のイチゴハウスで、捕食性天敵であるククメリスEX（ククメリスカブリダニ）を散布し、処理後のアザミウマ類等の発生状況を確認、支援した。

（2）関係機関への指導

天敵農薬を導入し栽培する生産者に対し、化学農薬との併用等で留意すべき事項を関係農林水産事務所へ助言した。

（3）病虫害・生育障害診断

正確な病虫害診断は、効果的な防除対策を講じることを可能にする。環境技術研究室と協力しながら各農林水産事務所やJAで診断できなかった病虫害を対象に、同定作業を実施し、その結果をもとに企画戦略部から農林水産事務所やJAに対し防除対策を提案、指導した。

3 普及活動の成果

（1）天敵農薬の使用による化学農薬の使用量低減及び省力的な防除技術の効果確認

ククメリスEXによる防除では、既存の化学薬剤を用いた防除と同様にアザミウマ類の発生を抑制した。また、化学農薬の使用に比べ省力性も確認できた（2月末の状

況）。

(2) 関係機関への指導

農林水産事務所から天敵農薬を導入している農家へ防除指導することにより、害虫の発生が抑制でき、効果的な防除ができた。

(3) 病害虫・生育障害診断

県内では本年度36件の診断依頼があり、その診断を行うとともに対策を提案し指導を行った。

4 今後の普及活動に向けて

生物農薬の防除効果と省力性について、各農林水産事務所に試験結果を報告する予定。来年度以降も複数の産地で普及が見込まれる。



ククメリスEX（捕食性天敵）



イチゴハウス内での天敵散布作業